



たんぽぽ

戸田市立喜沢小学校 令和5年6月1日

【学校の教育目標】

夢と希望をもち 未来社会を
心豊かに たくましく生きる
喜沢っ子の育成

6月号

デジタル社会だからこそ大切に育てたい「学びに向かう力」と「主体性」

校長 手塚 浩

5月27日のきざわんピックでは、保護者、地域の皆様にご来校いただき、誠にありがとうございました。今年のきざわんピックは、これまで以上に計画の段階から子供たちが意見を出し合い、練習のときも取り組み方や作戦を自分たちで考えたり、話し合ったりしてきました。当日は道具の準備や運営を含め、これまで主体的に一生懸命取り組んできた成果が発揮されました。その姿に大きな拍手や声援をいただいたことは、子供たちにとって大きな自信につながったことと思います。

さて、近頃、新聞や報道番組で取り上げられない日がないほど対話型AIサービス「チャットGPT」が話題になっています。このサービスは、生成AIの一つで利用者の求めに応じてパソコンやスマートフォンから文章を瞬く間に作ってくれます。そして、利用登録すれば13才以上の誰もがすぐに使うことができます。昨年11月に無料公開されてから、2か月間で利用者が1億人を超えるほど世界中で急速に広がっています。様々な分野での活用が期待される反面、オンライン上にある膨大なデータを読み込んで文章を生成することから意図せずに著作権を侵害してしまうこと、オンライン上の偏った意見や誤った情報が反映された文章が作られてしまう可能性等があるなど、多くの問題点も提起されています。

生徒や学生がこうした生成AIを学びに利用することについても様々な議論があります。問題点と思われる一つに、論文やレポートを作成する際に生成AIを利用し、生成された文章をそのまま提出をしてしまう恐れがあることが挙げられています。チャットGPTの利用は13才以上からとなるので、一見すると小学生とは関係ない問題のように思われます。しかし、これはチャットGPTの利用に限った問題ではありません。本質的な問題は、課題を提出すること自体が目的となってしまうことです。本来学びは「提出する必要があるからやらなければならない」ものではありません。自分自身が興味・関心を持ち、主体となって学び進めるからこそ自分事となり、学ぶ楽しさを感じることができます。学びの根幹となる「学びに向かう力」と、自分で考え判断して進んで学びや活動に取り組む「主体性」は、小学校段階だからこそ大切に育てたい力です。

AIの進化は加速度を増し、社会生活へも急速に浸透していきます。既に生成AIは文章だけではなく、音声や画像も生成できるようになっています。近い将来には、現在のインターネットのように誰もが当たり前のように利用し、より人々の生活を豊かにするツールとして多くの人や企業が活用しているかもしれません。ただ、どんなに高度なデジタル社会になっても主役は人です。これからの未来社会を生きる子供たちには、AIを排除するのではなく、AIに依存するのでもなく、AIでは代替できない力・AIを使いこなす力を身に付け、どんな社会の変化にも自分らしく心豊かにたくましく生きぬく力が求められているのではないのでしょうか。